

行政の在り方を考え、 実現していく



総務省行政管理局
行政情報システム企画課長 吉牟田 剛

経歴

- 昭和63年 4月 総理府・総務庁採用
- 平成5年 7月 米国留学(ハーバード大学大学院)
- 平成7年 7月 総務庁人事局企画調整課課長補佐
- 平成11年 7月 在米日本国大使館一等書記官
- 平成14年 7月 内閣官房行政改革推進事務局企画官
- 平成16年 9月 村上国務大臣秘書官
- 平成19年 7月 内閣官房内閣参事官(官邸報道室長)
- 平成21年10月 現職

プロジェクト紹介 「政府共通プラットフォーム」プロジェクト

縦割りを批判されることが多い霞が関ですが、情報システムに関しては統合が大胆に進んでいます。情報システムの活用は、各府省の行政運営そのものと言ってもよいほど行政機関に浸透していますが、他方で財政状況は大変厳しく、それぞれの部局で情報システムを管理運営する余裕はありません。このため、例えば、電子決裁、文書保存などを行う文書管理システムについて、以前は各府省ごとにそれぞれのシステムを開発、管理運営していましたが、これを統合・集約化し、総務省で設計・開発した文書管理システムを政府全体で共有しています。

このような府省間のシステム統合に加え、今、政府全体としてのリソース最適化をさらに加速するため、各府省システムのクラウド化に取り組んでいます。これは、「政府共通プラットフォーム」と呼ばれる、クラウド技術を用いたシステム環境を総務省で整備し、ここに各府省の情報システムを段階的に統合・集約化するプロジェクトです。各府省のアプリケーション・システムを政府共通プラットフォーム上に移行することで、情報システム運営費を政府全体で大幅に削減することを目指しています。

この取組は、平成23年度予算「元気な日本復活特別枠」(政策コンテスト)で高い評価を獲得するとともに、米・英などの政府機関からも強い関心を持たれている戦略的プロジェクトです。



課内での打ち合わせ

総務省の役割って何だろう

失われた20年という言葉があります。主にバブル景気後の長期間の経済低迷を指しています。では、行政の過去20年はどうでしょうか。私が霞が関で勤務を始めた頃と比べ、行政の在り方は大きく変化しています。行政運営を公正で透明なものにするため、行政手続法、情報公開法などが整備されました。また、行政の組織や事務・事業を簡素で効率的なものとするなどのため、中央省庁再編、独立行政法人制度創設などが実現し、地域主権改革も進められています。そして、これらのすべてに総務省は深く関わっています。

現在、私が担当している行政管理局行政情報システム企画課は、国の行政機関のICT化を進めています。パソコン、インターネット、スマホなどのICTは、私たちの日々の暮らしの隅々まで浸透しており、人々のライフスタイルや企業の経営スタイル、そして世の中のものを変える力を持っています。行政運営が効率的に行われ、かつ、国民の利便性を高めることができるよう、行政機関のICT化を推進し、かつ、それをより合理的なものとするのが、私たちの重要な課題です。

これからの行政の在り方は

これまで私は、総務省で行政管理局(行政機関の情報化)や人事・恩給局(国家公務員制度の改革)を中心に勤務してきました。また、行政改革の仕事に携わることも多く、行革大臣の秘書官を務めたり、内閣官房で行政改革推進法の企画立案に従事しました。さらに、首相官邸で報道室長を務めたこともあれば、米国に外交官として赴任した時は、大統領選をフォローしていました。

どの仕事もそれぞれに大変でしたが、いずれも興味深く、このような貴重な経験を積み重ねさせてもらっていることに本当に感謝しています。そして、首尾一貫しているのは、どの職場でも、国民の信頼を確保するための「行政の在り方」について考えさせられたということです。

現在、行政の在り方について何が必要か、レ

ストランを例にとり考えてみましょう。お客さまにとって、美味しさや価格が重要なのはもちろんですが、例えば、誰がどういう素材をどういう風に調理しているかを見ることができるオープン・キッチン、消費者に信頼されています。行政においても、無駄をなくし、求められる行政サービスを提供するのももちろんですが、安心・安全が強く求められている今、透明化を徹底するとともに、国民と双方向のコミュニケーションを拡充していくことが重要だと考えています。

一緒に働きましょう

行政を刷新していくことは、簡単ではありません。どんなことでもそうですが、現在の姿や制度になっているのは、それなりの理由や合理性があるためです。でも、時代が変化するにつれて、国民のニーズや優先順位が変わったり、ICTの活用によって、これまで実現できなかったことが実現可能となったりします。そのような状況に対応するため、行政の在り方は絶えず見直さなければなりません。そのためには、過去の知識や経験にとらわれていないフレッシュな思考が求められます。だから私たちはあなた方を必要とするのです。

もちろん、日々の仕事の多くは地道な作業の積み重ねからなります。また、多くの公務員は高い志を持って真面目に仕事に取り組んでいます^(注)が、行政や公務員の在り方については絶えず厳しいご指摘があり、これを謙虚に受け止めなければなりません。

ある偉人は、金銀の財宝が国の宝ではなく、地味であっても自分の置かれている立場でベストを尽くして世のため人のため努力できる人こそ、国の宝である、という言葉を残しています。総務省は、国の宝となるあなた方をお待ちしています。

(注)東日本大震災のときの行政の対応について、総務省の先輩職員がまとめられた「政府の被災者生活支援チームの活動経過と組織運営の経験」(季刊行政管理研究2011年12月号)をご覧ください。

Schedule ある1日のスケジュール

- 6:00前**
体質的に朝型にはなれない。はずだったが、最近朝早く目が覚める。日経新聞連載中の「私の履歴書 トニー・ブレア」を読むのが楽しみ
- 8:30**
清木の東海道線で通勤。グリーン車定期券を買うのが夢!
- 10:00**
予算執行監視チーム(副大臣、政務官、外部有識者から構成)。主要部局の課長が出席し、24年度予算の執行の在り方について打ち合わせ
- 11:00**
採用/フレット用の写真撮影。時間がいないため、本日の打ち合わせ中に勝手に撮影してもらうこととする。
- 12:15**
知人が運営する会合に向かう。業務関連テーマについて年に数回出席。今日は日本マクドナルドの原田CEOがスピーカー。面識はないが、同僚の先輩。凄く充実した内容だった。
- 13:30**
部下からの進捗状況報告。オープン・ガバメントとe-gov見直しを議題。自分の意向どおりに進めてくれている。優秀な部下に感謝
- 15:45**
OECD電子政府会合への対応について担当者から報告。上級幹部に出席いただく予定だったが、私が行くことになったようだ。
- 17:00**
仕事が終わる。厳しい局面を迎えると、優秀な人ほどイキキし始めるように思えるのは気のせいかな?
- 18:00**
重要案件について局長に中間報告。多忙なのによく話を聞いてくれるので本当に助かる。
- 19:30**
学生時代の友人から誘いの電話が入る。役人ではないが同じような仕事をしている。サラリーマンの聖地新橋で意見交換。
- 21:30**
清木の東海道線。普段は始発の東京駅から乗るので座れることも多いが、この日は新橋から乗るので座れない。やはりグリーン車に目が行く。

若手職員の声



行政管理局
行政情報システム企画課
係長

清木 美帆
(平成20年入省)

私は課の総括担当として、国会関係の調整や、組織に関する事務、大臣官房等からの照会対応等を行っています。業務の性質上、課の内外を問わず多くの人と関わりがあり、霞が関の仕事の流れを自分の目でよく見ることができ、年次を重ねるごとに、意見を求められる機会が増え、また、様々な役職の人たちと一緒に仕事をすることができるので、若いうちから成長できるフィールドを与えられた恵まれた職場だと思っています。もちろんまだまだ未熟なので、上司や同僚が丁寧にサポートしてくれます。時には吉牟田課長から、厳しくも温かいお言葉を頂戴することも。仕事以外でも、駅伝大会へ有志で参加したり、今流行の女子会でお酒を飲んだり、職員同士の交流は多く、いいストレス発散になっています。自分の思いを仕事に反映したい、日々成長したいという志のある方に、是非目指してほしい刺激的な職場です。